

JAPAN SIPHONIST CHAMPIONSHIP 2026

RULES & REGULATIONS

ジャパン サイフォニスト チャンピオンシップ 2026
ルール規約

Version: 1.0, 2026
SCAJ 競技会委員会作成
2026/02/25 更新

1 参加条件

1.1 参加者

1.1.1 参加資格

ジャパンサイフォニストチャンピオンシップ(以下 JSC)への参加資格は、日本国籍をお持ちの方、もしくは2年以上の就業証明書類、就業書類を所持している方とします。

また、競技者は同年の JSC 予選・決勝における審査を行うこと、ならびに審査員の資格を有することはできません。

1.1.2 費用

競技者は JSC への出場に際し、開催期間中のすべての費用に関し責任をもつものとします。すべての費用とは、競技者の移動に伴う費用、宿泊費用、追加の旅費、大会での提供品、原材料、輸送・運送費およびコーチやサポートメンバーの費用等を含みます。

JSC は、競技者のいかなる費用も負担しないこととします。

1.1.3 WSC 日本代表選考に関する規定

本競技会において優勝した競技者は、ワールドサイフォニストチャンピオンシップ(以下 WSC)に日本代表として参加します。

但し、日本国籍を有する者のみ、その対象とします。

日本スペシャルティコーヒー協会(以下 SCAJ)は、国内代表に選出された競技者およびそのサポーター1名の渡航費、宿泊費(WSC 開催期間中)を負担するものとします。これ以上の競技会に係る費用(競技者自身の旅行と宿泊に係る追加費用、消耗品、材料費、現地交通費、追加人員費用などを含む)は競技者が責任を持つこととします。なお、SCAJ が負担する宿泊費は本大会前後2日間です。

本競技会の優勝者が何らかの理由で日本代表として WSC に参加できない場合、またはその権利を放棄する場合、次点の競技者にその権利を移譲するものとします。

1.2 申込

1.2.1 競技者登録フォーム

競技者は必要事項のすべてを記載のうえ、SCAJ ホームページ内 JSC 競技会ページより申込みをしてください。

1.2.2 申込期限

SCAJ ホームページ内 JSC 競技会ページの記載を参照してください。

1.3 競技者からの質問

すべての競技者は、最新の JSC ルール&レギュレーション(以下 R&R)とスコアシートについて幅広く理解しておかなければなりません。

R&R およびスコアシートの理解不足による異議申し立てに対して、例外措置および便宜をはかることはありません。

すべての JSC 関連書類は、SCAJ ホームページ内 JSC 競技会ページからダウンロードできます。質問がある場合は**予選大会および決勝大会それぞれの7日前までに JSC 事務局宛にご連絡ください。**

1.4 規約

参加登録を行うことにより、競技者は以下の規約を理解し、同意するものとみなされます。

注意 本 R&R には、競技者および JSC 優勝者が負う責任が含まれます。期間は、JSC 大会開催日から次の JSC 大会開催日までです。

A. 競技者は、以下のことを確認し、エントリーを行ってください。

- i. JSC、SCAJ がそれぞれの普及促進に際して、競技者の氏名、画像を使用することを許可すること。
- ii. 上記の使用に際して、写真、ビデオ、印刷物、インターネット、その他のいかなる電子メディアを含め、いかなる制限も受けないこと。

- iii. JSC や SCAJ の好評を維持するために積極的に活動すること。
- B. 競技者は、本 R&R に定める競技者行動規範をよく読み、また遵守すること。
- C. JSC 優勝者は、SCAJ を代表するサイフォンistとなること。
- D. JSC 優勝者は、本 R&R に定める優勝者の行動規範をよく読み、また遵守すること。

2 競技概要

2.1 概要

- A. 本競技会の公用言語は日本語とします。
- B. 本競技会は予選と決勝が行われ、予選を通過した競技者が決勝に参加できます。
- C. 競技者は、3名のセンサリージャッジ、2名のテクニカルジャッジ、1名のヘッドジャッジにより審査されます。
- D. 競技者は、3名のセンサリージャッジそれぞれに、ブレンドコーヒー1杯とシングルチャービバレッジ1杯を提供してください。(シングルチャービバレッジは、コーヒーベースでありアルコールを使用していないものに限りです。)全部で6杯のドリンクを、15分の競技時間内に提供してください。
- E. 競技者は、サイフォンで抽出するコーヒーにおいて、JSC から提供されるステージ上の公式給湯器の水のみ使用することができます。公式給湯器には、スポンサーの浄水器を通した水のみが使用されます。水質は以下の基準を目標に調整されます。
 - 全硬度(GH) : 50-175ppm CaCO₃ (2.9-9.8°d)
 - アルカリ度(KH) : 40-75ppm CaCO₃ (2.2-4.2°d)
 - ペーハー(pH) : 6.5-8
 - 電気伝導率 (µS/cm 20°C) : アルカリ度 (ppm CaCO₃) の3倍を超えない決勝大会では前日オリエンテーション時に、競技会場の水を持ち帰ることが出来ます。
- F. どのドリンクから提供するかは競技者の判断に任せますが、同じカテゴリーのドリンクを3杯提供し終わってから、他のカテゴリーのドリンクを提供してください。
- G. それぞれのカテゴリーのドリンク提供方法は競技者の裁量に委ねられます。(例えば、1杯ずつ提供するの、また、2杯ずつ提供するの、3杯同時に提供するのも競技者の裁量に委ねられます。)センサリージャッジは、提供されたらすぐに審査を始めます。(もし、競技者がカテゴリー以外のドリンクを提供した場合は、失格となります。)
- H. ブレンドコーヒーは規定の1つのサイフォン器具で1杯抽出とします。
- I. シングルチャービバレッジのコーヒーも規定の1つのサイフォン器具で1杯抽出とします。
- J. 競技者から見て右側3連光サイフォンテーブルフラットをブレンド用に、左側3連光サイフォンテーブルフラットをシングルチャービバレッジ用に使用すること。
- K. 同じカテゴリーのドリンクは、3杯とも同じコーヒー豆・材料を使用して作らなければなりません。
- L. 競技者はそれぞれのカテゴリー(ブレンドコーヒー、シングルチャービバレッジ)毎に異なるコーヒー豆を使用することができます。
- M. 競技者は競技時間中に何杯でもドリンクを作成することができます。審査員は提供されたドリンクのみを評価します。
- N. **注意** 予選は特別ルールで行います。別項2.3「予選特別ルール」を確認してください。

2.2 飲料の定義

2.2.1 ブレンドコーヒー

- A. ブレンドコーヒーは、異なるオリジンのコーヒー豆の配合、もしくは同じオリジンでも異なる焙煎度合いのコーヒー豆の配合、もしくは精選(生産プロセス)の異なるコーヒー豆の配合を使用するものとします。同じ焙煎度合い、同じ精選のシングルオリジンコーヒー豆1種類を使用したドリンクは、ブレンドコーヒーとして認められません。
※オリジン・焙煎度合い・精選が同じでスクリーンのみ異なるコーヒー豆を配合してもブレンドコーヒーとは認められません。
- B. ブレンドコーヒーは、何グラムのコーヒー豆を使用しても構いません。
- C. ブレンドコーヒーは JSC 競技会指定のサイフォン器具2人仕様を使用します。フラスコに入る湯量であれば、任意の湯量で抽出する

ことができます。

- D. コーヒー液の抽出量は1杯につき100ml~300mlまでの範囲の任意の量とします。サイフォン抽出中のロートに加水する事は可能です。3杯のブレンドコーヒーの抽出量は基本的に同じであることとします。1杯のブレンドコーヒーは1つのサイフォン器具それぞれで抽出されたものでなければなりません。
- E. フラスコに抽出されたブレンドコーヒーを、別の器具に移しての冷却や直接物体にコーヒー液を当て冷却することは不可とします。冷却する場合はコーヒーがフラスコに入った状態で冷却してください。コーヒー液はフラスコから直接カップに入れてください。またサイフォンで抽出されたコーヒーを後に濾過することや、抽出後のコーヒー(液体)に何かを加えることは不可とします。
※サイフォンで抽出されたコーヒー液を評価します。移し替えた時の、器具に付着した匂いや香り、味覚に与える影響のある物質の混入を防ぐため。
- F. ブレンドコーヒー提供の際に使用するカップ等の決まりは定めませんが、3つの提供容器は同じ形状であることとします。
- G. ブレンドコーヒー提供の際は、各センサリージャッジにお水を用意してください。

2.2.2 シグニチャービバレッジ

- A. シグニチャービバレッジは、競技者により創造されるサイフォンコーヒーのフリースタイルドリンクです。
- B. シグニチャービバレッジは、飲料であるため、審査員が飲めるものでなければなりません。
- C. シグニチャービバレッジは、JSC指定のサイフォン器具2人仕様を使用します。
- D. シグニチャービバレッジ用に使用するコーヒー液の抽出量は、1杯につき100ml以上とします。1杯のシグニチャービバレッジに使用するコーヒー液は1つのサイフォン器具でそれぞれ抽出されたものでなければなりません。ただし、一杯のシグニチャービバレッジに抽出したコーヒーをどれだけ使用するかは、競技者の裁量に委ねられています。競技者は、別々のサイフォンで淹れたコーヒー液を混ぜることはできません。
- E. シグニチャービバレッジは、競技時間内に提供されなければなりません。
- F. シグニチャービバレッジには、コーヒーの風味が優位的/支配的に存在する必要があります。
- G. シグニチャービバレッジは、飲用に適したいかなる温度帯でも構いません。
- H. シグニチャービバレッジに使用するいかなる原材料の中にも、アルコールやアルコールエキス、アルコールの副次物、また、麻薬等違法物質が含まれてはいけません。
- I. シグニチャービバレッジに使用する原材料は、競技時間内に現場で調理されることが望まれます。
- J. 使用するすべての原材料は、オープンにされる必要があります。競技者は、使用した原材料のボトルや包装・パッケージを持参してください。

2.2.3 スコアシートにおけるペナルティ

- A. もしシグニチャービバレッジの原材料として、アルコールや麻薬等違法物質が見受けられた場合、センサリージャッジのシグニチャービバレッジカテゴリーのすべての項目は、0点となります。
- B. もしブレンドコーヒー抽出時に、コーヒー・水以外の原材料、もしくは何らかの薬品や添加物等が、ロートもしくはフラスコ内に見受けられた場合、テクニカルジャッジおよびセンサリージャッジのすべてのスコアが0点となります。
※シグニチャービバレッジの作成に際し、サイフォン器具の特性を生かしてロートもしくはフラスコにコーヒー以外の原材料を入れて抽出を行いたい場合、競技者はその旨を事前に申告し、JSCが提供する追加のサイフォン器具を使用してください。
- C. それぞれのシグニチャービバレッジにサイフォンコーヒーが入っていない場合、シグニチャービバレッジの「味覚のバランス」の項目は、0点となります。

2.3 予選特別ルール

2.3.1 概要と予選前の準備

- A. 予選は、共通のシングルオリジンのコーヒー焙煎豆を使用し、予選特別ルールで行います。
2.3項に特記されていない内容に関しては、決勝ルールに準じるものとします。
- B. 参加登録完了後、競技者には予選に使用するものと同等(生豆、焙煎機、焙煎プロファイル)のシングルオリジンのコーヒー焙煎豆

400gを事前配布します。配布されたコーヒー豆は、各競技者が味覚の確認およびサイフォンコーヒーの抽出検証などに自由に使用することができます。(SCAJ事務局より、予選1ヶ月前を目安に送付します。送付先が参加登録時の住所と異なる場合は、あらかじめ事務局宛にEメールにて申請してください。)

- C. サイフォン熱源は、JSCより提供される次の2つのJSC公式スポンサー機器から、競技者がいずれかを選択して使用するものとします。事務局より別途送付する申請フォームにて事前申請してください。申請後の変更は認められません。
- ・BONMAC 光サイフォンテーブルフラット(HSTF-1031)3連 1台
 - ・BONMAC ビームヒーター(BMBH-350N)1連×3台



- D. サイフォン器具は、JSCより提供される指定の2人仕様(ロート、フラスコ、スタンド)を6セット使用し、アジャストメントタイムおよびブリューイングタイムの抽出を行うこととします。
- E. グライNDERはJSCより提供される公式スポンサー機器を使用するものとします。競技者による持ち込みはできません。
- F. 競技エリアに用意されるその他の備品については、以下の2.3.6項を参照してください。コーヒー抽出に必要なそれ以外の器具、備品は各競技者が用意してください。ただし、競技エリアで電源を必要とする電気機器の持ち込みはできません。

2.3.2 予選競技概要

- A. それぞれの競技者には、競技前に準備・調整を行うための15分の「アジャストメントタイム」と、審査対象のコーヒーを抽出し提供するための7分の「ブリューイングタイム」が与えられます。
- B. 競技者は、2名のセンサリージャッジ、1名のテクニカルジャッジ、1名のヘッドジャッジにより審査されます。
- C. 競技者は、2名のセンサリージャッジそれぞれに、競技会から配布されるシングルオリジンのコーヒー焙煎豆を使用したサイフォンコーヒー1杯を提供してください。7分間のブリューイングタイム内に合計2杯のコーヒーを提供してください。
- D. コーヒー抽出に使用する水は、大会スポンサーの設置する機器システムによりコントロールされた水のみとなります(2.1参照)。
- E. コーヒー抽出には、何グラムものコーヒー豆を使用しても構いません。
- F. コーヒー抽出には、JSC指定のサイフォン器具2人仕様を使用します。フラスコに入る湯量であれば、任意の湯量で抽出することができます。競技者は事前に申請したサイフォン熱源のみを使用し、規定の1つのサイフォン器具で1杯抽出とします。
- G. コーヒー液の抽出量は1杯につき100ml~300mlまでの範囲の任意の量とします。サイフォン抽出中のロートに加水する事は可能です。
- H. 2杯のコーヒーの抽出量は基本的に同じであることとします。提供する1杯のコーヒー液は1つのサイフォン器具でそれぞれ抽出されたものでなければなりません。
- I. フラスコに抽出されたコーヒーを、別の器具に移しての冷却や直接物体にコーヒー液を当て冷却することは不可とします。冷却する場合はコーヒーがフラスコに入った状態で冷却してください。コーヒー液はフラスコから直接カップに入れてください。またサイフォンで抽出されたコーヒーを後に濾過することや、抽出後のコーヒー(液体)に何かを加えることは不可とします。
- ※サイフォンで抽出されたコーヒー液を評価します。移し替えた時の、器具に付着した匂いや香り、味覚に与える影響のある物質の混入を防ぐため。
- J. コーヒー提供の際に使用するカップ等の決まりは定めませんが、2つの提供容器は同じ形状であることとします。
- K. コーヒー提供の際に、お水やミルク、お砂糖、カトラリー等を用意する必要はありません。
- L. 審査員は提供されたカップのコーヒー抽出液以外は飲みません。また、審査員に提供するために抽出したコーヒー抽出液を、競技者自身が試飲して提供することはできません。違反した場合は失格となります。
- M. 競技者は自身の提供するコーヒーについて、使用するコーヒー焙煎豆の特徴を踏まえ、「コーヒー抽出のアプローチ」や「味覚」等に関するプレゼンテーションを行ってください。プレゼンテーションのためのツールの使用は任意とし、プレゼンテーション評価に影響を与えないものとします。

2.3.3 アジャストメントタイム(調整・準備時間)

- A. 15分間の「アジャストメントタイム」は、競技に使用するコーヒー豆を使用した試し抽出、試飲、抽出液の測定、グラインダーのメッシュ調整および審査用の抽出準備を行うために与えられる調整・準備時間です。
- B. アジャストメントタイムの開始前に、当日用のコーヒー焙煎豆 200g が配布されます。競技者は配布されたコーヒー豆の分量の範囲内で、準備および競技に必要なすべての抽出を行ってください。コーヒー豆の追加配布や持ち込みは一切できません。
- C. 競技者は、競技エリアに設置された備品以外のすべての競技備品を、運搬用トレイに入れて競技エリアに運んでください。
- D. 競技者が運搬用トレイを競技台に置いた後、タイムキーパーが競技者に合図を行いますので、競技者は自身で「はじめます」とコールし準備を開始してください。タイムキーパーはこの時点から 15 分間のアジャストメントタイムの計測を開始します。
- E. アジャストメントタイムの開始後、準備エリアに忘れ物等があった場合は、競技者自身が取りに行ってください。コーチやサポーターが取りに行くことはできません。
- F. コーチやサポーターがアジャストメントタイム中に競技エリアに立ち入ることはできません。また、コーヒーの試飲やアドバイスなど、競技者の手助けを行うことは一切できません。違反とみなされる行為があった場合、競技者は失格となります。
- G. アジャストメントタイムの終了前までに、競技者は審査用の抽出を開始する準備として、濾過器の装着、フラスコの洗浄、お湯の計量、豆の計量などを行うことができます。
- H. 審査用の抽出に使用するコーヒー豆のグラインドをアジャストメントタイム中に行うことはできません。
- I. サイフオンのフラスコにロートを差し込んだ状態でブリューイングタイムを開始することはできません。アジャストメントタイム終了後、フラスコにロートが差し込まれていた場合、ヘッドジャッジから適正な状態に戻しスタートするように指示があります。その場合、すべての審査員の合計得点から 3 点の減点となります。
- J. タイムキーパーは競技者に残り時間が、5 分、3 分、1 分のときにアナウンスします。15 分が経過したら、タイムキーパーは「終了」とコールし、競技者に一歩下がるように声をかけます。競技者は準備の途中であっても作業を終了してください。アジャストメントタイム中に競技者の準備が十分に整わなかった場合は、ブリューイングタイム開始後に準備の続きを行ってください。

2.3.4 ブリューイングタイム(競技時間)

- A. アジャストメントタイム終了後、司会者がヘッドジャッジとタイムキーパーに準備の確認を行い、競技者に合図を出します。競技者は手を上げ「はじめます」と開始の合図をしてください。ヘッドジャッジとタイムキーパーはその時点から 7 分のブリューイングタイムの計測を開始します。
- B. 競技者は 2.3 項に定められた予選特別ルールに従い、2 杯のコーヒーを審査員テーブルへ提供してください。
- C. 審査員に提供するコーヒー抽出のためのコーヒー豆のグラインドは必ずブリューイングタイム中に行ってください。ブリューイングタイム前に予めグラインドされたコーヒー粉を審査用の抽出に使用した場合は失格となります。また、アジャストメントタイム中に計量したフラスコ内のお湯をいったん捨てる必要はありません。
- D. コーチやサポーターがブリューイングタイム中に競技エリアに立ち入ることはできません。外からのコーチングやアドバイスなど、競技者の手助けを行うことは一切できません。違反とみなされる行為があった場合、競技者は失格となります。
- E. タイムキーパーは競技時間中、競技者に残り時間が、5 分、3 分、1 分のときにアナウンスします。
競技時間は競技者が手を上げて「終わります」とコールした時点で終了します。競技者はタイムキーパーとヘッドジャッジに明確に聞こえるようにコールしてください。競技者は好きな時に競技を終了することができます。
- F. 競技者が割り当てられた 7 分間に競技を終えられなかった場合、2 名のセンサリージャッジ、1 名のテクニカルジャッジ、1 名のヘッドジャッジのスコアの合計得点から、7 分間を超えた 1 秒毎に 1 点減点されます。超過が 60 秒を超えた場合は失格となります。
- G. コーヒーの味覚評価は決勝ルールに準じます。
 - ・センサリー 2 名(センサリースコアシート 401 ~ 407 のみの評価)
 - ・テクニカルジャッジ 1 名(テクニカルスコアシート 301 ~ 312 のみの評価)
 - ・ヘッドジャッジ 1 名(ヘッドジャッジスコアシート 802、803、805 のみの評価)
 - ・総合得点が同点の場合、センサリースコアの高いほうが優先されます。
 - ・センサリースコアも同点の場合、センサリースコア 407 コーヒーの総合バランスが高いほうが優先されます。
 - ・センサリースコア 407 が同点の場合、センサリースコア 404 コーヒーの良質な酸味の得点が高いほうが優先されます。

競技者は、下記のことを必ず持参してください。

- ・ 濾過器
- ・ フィルター(ペーパー、布、ステンレス等)
- ・ 提供容器(審査用およびアジャストメントタイムの試飲用)
- ・ その他、上記設備品以外に必要な器具、備品。

ただし、競技エリアで電源を必要とする電気機器の持ち込みはできません。

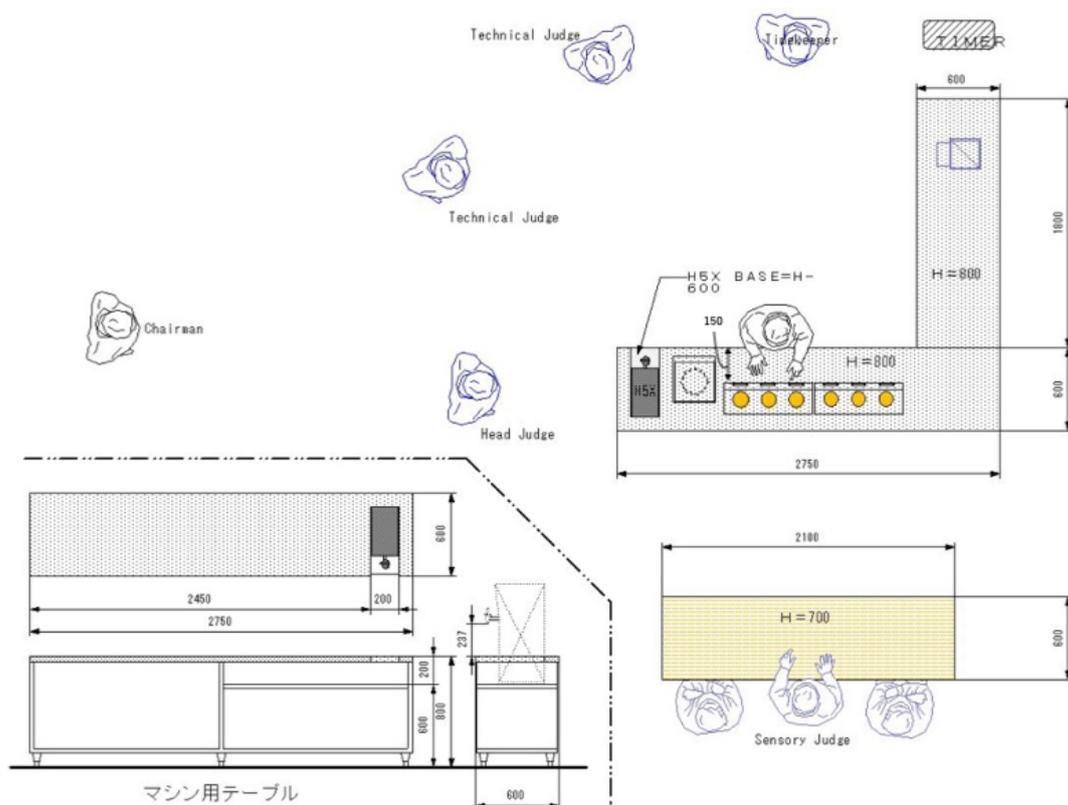
3 大会の流れ

- A. 競技スペースには、1,2,と番号が付けられます。マシン用テーブルから審査員テーブルの距離は会場により異なります。
- B. それぞれの競技者には、開始時間と競技スペース番号が割り当てられます。
- C. それぞれの競技者には、下記の通り 40 分間(予選 25 分)が与えられます。
- i. 準備時間:15 分間(予選 アジャストメントタイム 15 分)
 - ii. 競技時間:15 分間(予選 プリユースタイム 7 分)
 - iii. 片付時間:10 分間(予選 3 分)

D. 競技の流れは、概略として下記の表の通りです。

| 競技スペース 1 | 競技スペース 2 |
|------------|------------|
| 1 サイフォンist | |
| 準備時間:15 分間 | 2 サイフォンist |
| 競技時間:15 分間 | 準備時間:15 分間 |
| 片付時間:10 分間 | 競技時間:15 分間 |
| 3 サイフォンist | 片付時間:10 分間 |
| 準備時間:15 分間 | 4 サイフォンist |
| 競技時間:15 分間 | 準備時間:15 分間 |
| 片付時間:10 分間 | 競技時間:15 分間 |
| | 片付時間:10 分間 |

競技エリア概要



4 機器、アクセサリ類、原料類

4.1 マシン用テーブル

競技者は、JSC より提供される JSC 公式スポンサーの光サイフォンテーブルフラットを使用することとします。JSC より提供される光サイフォンテーブルフラットの熱源は「ハロゲンヒーター」です。サイフォンテーブルの設定変更・調整はできません。

光サイフォンテーブルフラット、ポットのお湯を沸かすIHヒーター、ホットウォーターディスペンサー（給湯器）の位置は上図の通り固定となります。それ以外の備品の配置は任意とします。

4.2 グライNDER

競技者は、JSC により公式に提供されるグラインダーを使用することもできますし、自身で持ち込んだグラインダーを使用することもできます。但し、競技者は競技時間中 1 台のグラインダーの使用しか認められていません。

4.3 (グラインダー以外の)電気機器を使用する場合

競技者は、光サイフォンテーブルフラット、IHヒーター、ホットウォーターディスペンサー（給湯器）以外の電気機器を追加で 2 つまで使用することができます。

競技者は、持ち込む電気機器を事前に JSC 事務局に連絡してください（例：IHヒーター、ハンドミキサーなど）。競技者は、使用する機器の動作確認を自身で行ってください。また、アダプターやコンバーター（電気変換器）が必要でないかなどは競技者自身で確認してください。

JSC はいかなるアダプターもコンバーターも用意していません。

4.4 提供される設備品、供給品

それぞれの競技スペースには、次のものが設備されています。

- ・JSC 事務局指定のサイフォン器具一式

- ・マシン用テーブル【W: 2,750 mm/D: 600 mm/H: 800 mm】
(光サイフォンテーブルフラット、ホットウォーターディスペンサー、IHヒーター、ポット、ロート立て等)
 - ・作業用テーブル【W: 1,800 mm/D: 600 mm/H: 800 mm】
(マシン用テーブルに対して、L字に左側に設置します。グラインダー、その他のアクセサリ用)
 - ・審査員テーブル【W: 2,100 mm/D: 600 mm/H: 700 mm】
 - ・光サイフォンテーブルフラット(ハロゲンヒーター) 2台 ※位置固定
 - ・IHヒーター 1台 ※位置固定
 - ・ホットウォーターディスペンサー 1台 ※位置固定
 - ・グラインダー 1台
 - ・ポット 1個
- ※ 運搬用ワゴン(準備時間および片付時間用)、ゴミ箱は主催者が用意します。

4.5 持参することを推奨する設備品および供給品

競技者は自身のプレゼンテーションに必要なものをすべて持ち込んでください。競技者は移動時もしくは競技中に破損した場合のために、予備品を用意してください。自身で持ち込んだものは、大会期間中、自身で責任を持って管理してください。ボランティアスタッフとイベントスタッフは競技者準備スペース、競技エリアに残された備品等について一切の責任を負いません。

競技者は、下記のを必ず持参してください。

- ・コーヒー(練習用・競技用)
- ・濾過器
- ・フィルター(ペーパー、布、ステンレス等)
- ・提供容器(3杯のブレンドコーヒー用、3杯のシグニチャービバレッジ用、および予備)
- ・水、水用のグラス(3名のセンサリージャッジ用)

競技者は必要に応じて下記の備品等を用意してください。

- ・グラインダー(JSCが提供するグラインダーを使用することができます)
- ・追加の電気機器(電源2個まで)
- ・スプーン
- ・必要な調理器具
- ・シグニチャービバレッジ用に使用するすべての機器およびアクセサリ
- ・ナフキン
- ・バータオルもしくはきれいな布巾(練習用・競技用)
- ・清掃用必需品(カウンター用ブラシ、グラインダー用ブラシなど)
- ・トレイ(審査員への接客・提供用)
- ・すべてのアクセサリ(審査員テーブル)
- ・運搬用トレイ(JSCが提供する運搬用トレイを使用することもできます)

5 競技者が準備時間の前にすべきこと

5.1 競技者オリエンテーションミーティング

JSCの競技開始前に競技者オリエンテーションミーティングが行われます。このミーティングにはすべての競技者が参加しなければなりません。このミーティングにおいて、JSC イベントマネージャーおよびヘッドジャッジは、大会の流れについてのアナウンスや説明を行います。その中で、スケジュールや競技エリア、バックヤードについての現地説明を行います。競技者は、質問や懸念事項などをJSC イベントマネージャーもしくはヘッドジャッジに質問することができます。

5.2 準備スペース

競技者が使用する準備用のスペースが用意されています。このスペースは、競技者、ボランティアスタッフ、JSC 事務員用に用意してあります。登録されたサポーター以外の関係者、JSC 審査員、プレスやメディアなどは JSC イベントマネージャーの承諾なしに準備スペースに入ることはできません。競技者は、自身の機器、アクセサリ、原材料などをこの部屋に保管しておくことができます。この部屋には、原材料を保管しておくための冷蔵庫や冷凍庫および食器洗浄用シンクが用意されています。競技者は自身のカップやお皿やガラス食器などをきれいにしておくようにしてください。また、自身の責任で備品を管理してください。ボランティアスタッフは、各競技者の備品等の破損・紛失に関して一切の責任を負いません。

5.3 競技時の音楽

競技者は自身の競技時間にかかる音源(CD)を持参することができます。音楽には、冒瀆、不敬な言葉が入ってはいけません。持参する音源(CD)を収めたケースに自身の氏名を必ず明記してください。競技者の責任において、大会前に JSC イベントマネージャーもしくはオーディオ・ビジュアルスタッフに自身の音源(CD)を手渡してください。また、競技者の責任において、競技後 JSC イベントマネージャーもしくはオーディオ・ビジュアルスタッフから音源(CD)を返却してもらってください。競技者が受け取りに来なかった場合は、大会後に破棄されます。

※予選の場合は、CD 以外の音源を各自の機器で流していただくことも可能です。

5.4 時間の遵守

少なくとも準備時間開始の 30 分前に、準備スペースにスタンバイしているようにしてください。自身の準備時間の 15 分前にその場こいない競技者は失格になる場合があります。

5.5 競技スペースのセットアップ

運営ボランティアリーダー（以下 ヘッドランナー）は、それぞれの競技者の競技スペースが準備時間前に競技者の要望通りになっているようにする責任を負っています。（例えば、ヘッドランナーはグラインダーや、電気機器の位置が競技者の要望通りになっているかを確認してください。）

5.5.1 グラインダーや電気機器のセットアップ

もし、競技者が自身のグラインダーを持ち込む場合には、大会前に JSC イベントマネージャーに知らせなければなりません。ボランティアスタッフは、15 分の準備時間の開始前に、競技者が持ち込んだグラインダーやその他の電気機器の運搬を手伝ってほしいかどうかを確認します。これらの備品を設置し、電源の動作確認を行ったら、それ以降、競技者はこれらの備品に触ってはいけません。設置後はすぐにその場から離れてください。

5.6 サポートメンバー／アシスタント

競技者、通訳、ボランティアスタッフと事務員以外の誰も、準備時間、片付時間中に競技スペースに立ち入ることはできません。サポートメンバー、アシスタントなどは競技スペースに立ち入ってはいけません。

5.7 ステージ上に運ぶ備品・供給品について

競技者は、自身の備品・原料を競技エリアに運ぶために運搬用トレイを使用できます。

競技者は準備時間前に、運搬用トレイに自身が使用する食器・備品・原材料等を積み込んでください。

6 準備時間

6.1 準備時間の開始

それぞれの競技者には、15 分間の準備時間が与えられます。前の競技者が競技を開始した後、JSC イベントマネージャーもしくは準備時間のタイムキーパーの告知により、次の競技者の準備時間が始まります。準備時間の目的は、競技スペースのセットアップと競技に向けた準備です。

競技者は準備室から運搬用トレイを使用し、自身の競技に使用する食器・備品・原材料等を競技スペースに運びます。

指定された競技スペースに、運搬用トレイ（運搬用トレイを複数使用する場合も同様）を準備した段階で、タイムキーパーは競技者に「用意はいいですか？」と尋ねます。競技者は、「OK」の返事をします。（準備時間前に、ばんじゅうを競技台に置くことは可能です。）

タイムキーパーが「TIME」とコールし、15 分間の準備時間を計測するストップウォッチのスタートボタンを押し、タイマーも同時にスタートさせます。計測開始後は準備時間内であれば、何度でも備品を取りに準備スペースと競技スペースを往復することができます。

6.2 運搬用トレイ

競技者は自分自身で運搬用トレイから備品等を取り出してください。競技者は、準備時間内に運搬用トレイを競技スペースから下げ、競技時間中に運搬用トレイを競技スペースに残さないようにしてください。

注意 もし、準備時間が終わった時点で運搬用トレイの上に競技に使用する備品等が残っていた場合、競技者はそれらを競技開始前に取り出すことはできません。競技者は、競技開始後に運搬用トレイから備品等を取り出し、運搬用トレイを競技スペースから下げてください。※ 8.3 アクセサリーを忘れたらを参照してください。

6.3 審査員テーブル

審査員テーブルは準備時間中にセットアップしてください。審査員用のお水は準備中に審査員テーブルに用意することができます。但し、競技時間が始まる前にお水をグラスに注がないでください。もし、競技者が審査員用テーブルを競技時間中にセットアップしたい場合は、準備時間中にセットアップしなくても構いません。

6.4 試し抽出

競技者は、準備時間中に試し抽出を行うことができます。

6.5 フラスコのお湯

準備時間の終了時、サイフォン器具の保温のために、フラスコ内には任意の量のお湯を入れておかなければなりません。

競技者は競技の開始後、抽出開始前に一旦フラスコ内のお湯を捨て、お湯を計量しなおす必要があります。準備時間が終わり競技開始前にフラスコにお湯を入れるのを忘れていた場合は、ヘッドジャッジが競技時間前に指摘しますので任意の量のお湯を入れてください。その場合、ヘッドジャッジのスコアから 6 点減点されます。

6.6 準備時間の終了

競技者は 15 分の準備時間を超えて準備することはできません。準備時間のタイムキーパーは準備時間中、競技者に残り時間が、10 分、5 分、3 分、1 分のときにアナウンスします。15 分が経過したら、準備時間のタイムキーパーは、「TIME」とコールし、一歩下がってください、と声をかけます。

7 競技時間

7.1 司会からの紹介

15 分間の準備時間が経過し審査員の準備ができたなら、司会者は競技者を紹介します。すべての競技者は、競技中ワイヤレスマイクの装着を求められます。競技時間中のみライブ状態（放送状態）になっています。

7.1.1 通訳

競技者は自身の通訳を用意することができます。通訳が競技者へ話しかける場合は、司会者が話したことを伝えることができます。競技者が話したことを正確に通訳してください。通訳者のために競技時間が割り当てられることはありません。

7.2 競技時間の開始

司会者は競技者の準備ができているかどうかを尋ねます。司会者の開始の合図と共に、競技者は手を上げ「TIME」と開始の合図をしてください。同時にタイムキーパーは、15分間の競技時間を計測する表示タイマーのスタートボタンを押します。ヘッドジャッジは、タイマーのスタートボタンが押されたのと同時に、ストップウォッチによる計測を開始します。公式のタイムはヘッドジャッジのタイム計測で行われますので、競技エリアのタイマー表示は目安としてください。

15分の競技時間の経過については、競技者自身が責任を持って把握してください。競技者は、タイマー表示を見て目安の残り時間を確認することができます。競技中はタイムキーパーに残り時間を聞くことはできません。タイムキーパーは競技時間中、競技者に残り時間が、10分、5分、3分、1分のときにアナウンスします。

タイムキーパーは、いかなる時でも指定の時間のアナウンスを決められた時間に行います。それは、もしかすると競技者が話をしているときであるかもしれません。

注意 もし、何らかの理由によりタイマーが故障してしまった場合でも、競技者は自身の競技時間を止めることができません。前述の通りヘッドジャッジの計測する時間が公式タイムとなります。競技者は上記の時間のアナウンスの提供を受けましょう。

7.3 競技者自己紹介

競技時間の開始時に、競技者は、3名のセンサリージャッジと1名のヘッドジャッジに自己紹介をしてください。3名のセンサリージャッジとヘッドジャッジは審査員テーブルの後ろにいます。2名のテクニカルジャッジは競技スペースの後ろに立ちます。共に、競技者の邪魔にならないように細心の注意を払います。

7.4 提供することが求められている飲料について

すべての飲料は、審査員テーブルに提供してください。2.1 概要と 2.2 飲料の定義を参照してください。

競技者は、3名のセンサリージャッジに水を提供してください。競技者は競技時間の最初に水を提供することもできますし、飲料の提供時にもできます。

7.5 ボランティアスタッフが提供された飲料を下げることについて

それぞれのカテゴリーの飲料が提供され、審査員により評価された後に、ヘッドジャッジの指示によりボランティアスタッフは審査員テーブルから飲料を下げます。ボランティアスタッフは、提供容器・食器とスプーンのみを下げます。もし、競技者がボランティアスタッフに特別な指示を出す場合、競技時間開始前に、JSC イベントマネージャーとボランティアスタッフにその指示をよく説明する必要があります。ボランティアスタッフは競技者の邪魔にならないように最善を尽くしますが、競技者は自身の競技スペースへうまく誘導してください。

7.6 競技スペースの区画周辺について

競技者には、JSC から提供された作業用テーブルと審査員テーブルの使用が認められています。テーブルや台を持ち込んで使用することはできません。(例えば、スタンドテーブル、移動式配膳台、作業台等)。また、競技者が物を置いておくためにテーブルの下を利用することはできません。

7.7 競技時間の終了

競技時間は競技者が手を上げて「TIME」とコールした時に終了します。競技者はタイムキーパーとヘッドジャッジに明確に聞こえるようにコールしてください。競技者は好きな時に競技を終了することができます。

例えば、競技者が審査員テーブルに最後の飲料を提供した時にも終了できますし、その後、作業台に戻り競技時間のぎりぎりまで作業台の清掃をしてから終了することもできます。

ペナルティ(減点)を課せられない最長の競技時間は 15 分間です。早く終了することでペナルティ(減点)を課せられることはありませんし、また特別な加点となることもありません。

7.8 競技時間後の会話について

競技者は自身の競技時間が終了した後に、審査員に話しかけないでください。競技時間後の会話や説明は得点に加算されません。競技者は、競技時間の終了後に司会者との会話を続けることができます。しかし、審査員は評価の際に、競技時間終了後に聞いた会話や説明を考慮することはありません。

7.9 時間オーバーによるペナルティ(減点)について

- A. もし競技者が割り当てられた 15 分間の競技時間内に終わることができなければ、完了するまでプレゼンテーションを継続することができます。
- B. 但し、競技時間が 15 分を超えた場合、2 名のテクニカルジャッジと 3 名のセンサリージャッジ、1 名のヘッドジャッジの得点の合計から
- C. 、15 分を超えた 1 秒毎に 1 点減点されます。
- D. 時間オーバーによる最大の減点は 60 点です。
- E. 総競技時間が 16 分を超えた競技者は失格となります。

7.10 コーチについて

準備時間、競技時間を通して、外からのコーチングはいかなる時点でも許されていません。もし、コーチングと認められる行為が行われた場合、その競技者は失格となります。サポートメンバーおよび観客、他のチームメンバーからの応援は大いに行ってください。しかし、いかなる方法でも競技者を手助けすることは許されていません。

注意 コーチ、サポーター、友人、家族は、競技時間中、競技スペースに立ち入ることはできません。

8 技術的な問題について

8.1 妨害行為について

- A. 準備時間、競技時間の間、競技者は下記のような技術的な問題を抱えることがあります。
 - i. サイフォンテーブル(電源、周辺機器等)
 - ii. グライNDER
 - iii. その他の電気機器(競技時間用タイマーを除く)
 - iv. オーディオ・ビジュアル設備(例えば、競技者の音楽やマイクなど)このような場合には、競技者は手を上げ「テクニカルタイムアウト」とコールし、ヘッドジャッジを呼んでください。その際に、ヘッドジャッジが認めた場合は、いつ「テクニカルタイムアウト」の宣言がされたのかを記録します。ヘッドジャッジが「テクニカルタイムアウト」の記録を行います。
- B. もし、JSC イベントマネージャーもしくはヘッドジャッジが、技術的な問題があり容易に解消できると判断した場合、JSC イベントマネージャーもしくはヘッドジャッジは、競技者にその分の適切な追加時間を決定します。技術担当者がその問題を修正でき次第、競技者の競技時間は再開されます。
- C. もし技術問題がすぐに解決できない場合、JSC イベントマネージャーもしくはヘッドジャッジは競技再開を待たせるか待たせないか、競技を中止し再度割り当てた時間で競技を再開するかどうかについて判断します。
- D. もし競技者が競技時間を止めなければならない場合、ヘッドジャッジと JSC イベントマネージャーと共に競技者は、後で再度競技時間を調整することとします。
- E. もし技術的な問題が競技者のミスによるものと判断された場合、ヘッドジャッジは追加時間を競技者に与えない場合があります。その場合、競技者は経過した時間は保証されずに、(タイマーが止まっているところから)そのまま競技時間が再開されます。
- F. 大会用の設備機器に精通していないことはテクニカルタイムアウトの理由にはなりません。

8.2 妨害行為について

- A. もしボランティアスタッフ、審査員、観客、カメラマンなどが明らかに競技者の障害物となったとき、競技者は追加時間を与えられます。ヘッドジャッジはこのことを俯瞰し、どれほどの時間を補償するかを決定します。

8.3 アクセサリーを忘れたら

- A. もし、競技者が準備時間中に自身の設備機器やアクセサリを忘れていた場合、忘れ物をステージ外に取りに出ることができます。しかし、この間の準備時間のタイマーは停止されません。
- B. もし、競技者が競技時間中に自身の設備機器やアクセサリを忘れていた場合、ヘッドジャッジに自身で忘れ物をステージ外に取りに出るということを申し出てください。しかし、この間の競技時間のタイマーは停止されません。
- C. ボランティアスタッフ、サポーター、チームメンバーや観客に、何かを持ってきてもらうことは一切できません。

9 片付け時間

競技者は競技を終えたら、作業ステーションの後片付けを始めてください。ボランティアスタッフは、バックヤードより競技者が荷物を下げるための運搬用トレーまたはカートを運んできます。もし、競技者が自身でグラインダーや他の電気機器を持ち込んでいる場合、ボランティアスタッフは競技者が競技スペースからこれらの備品を下げるのを手伝います。競技者は、自身で持ち込んだすべての設備および供給品を下げた後、作業台をきれいに拭いてください。審査員は片付け時間中の作業については評価しません。

10 競技終了後

10.1 競技記録の保管について

SCAJ 事務局が競技日から 1 年間保管管理します。

10.1.1 JSC 公式記録について

JSC 公式記録係が、すべての競技記録の集計および機密保持の責任を負います。

10.1.2 競技者の総合得点

競技者の総合得点は、3 名のセンサリージャッジと 2 名のテクニカルジャッジ、1 名のヘッドジャッジのスコアの合計となります。

10.1.3 同点の場合

もし 2 名以上の競技者の総合得点が同点であった場合、公認記録係はセンサリースコアシートのブレンドコーヒーのカテゴリー(401～407)の合計得点を計算します。センサリースコアシートの中で、ブレンドコーヒーのカテゴリーの合計得点が高い競技者から上位とします。もしブレンドコーヒーのカテゴリーの合計得点と同じであった場合、センサリースコアシートの総合的な印象(603～604)の合計得点が高い競技者から上位とします。

10.2 デブリーフィング ※決勝のみ

競技者には競技会后、スコアシートと各審査員の総評を送付します。

- A. 競技者はスコアシートの原本を持ち帰ることはできません。
- B. JSC の終了後、JSC イベントマネージャーは審査員と共にデブリーフィングを各競技者に行います。スコアシートはその場で競技者自身が記録するか写真にとることが可能です。JSC 事務局が 1 年間管理し原本の返却は行われません。

11 競技者からの異議申し立てと嘆願要請

11.1 競技者に関する問題

11.1.1 異議申し立て

もし、競技者が JSC 大会中に JSC に関する問題を提起する場合、もしくは異議申し立てを行う場合、競技者は JSC イベントマネージャーに連絡してください。JSC イベントマネージャーは、その場で解決できる問題かどうか、JSC 事務局に対して書面で嘆願する必要があるかどうかを検討します。もし、JSC イベントマネージャーがその場で解決できる問題だと判断した場合、関係各者にその方法が公平公正であるかどうかを確認します。競技者からの問題提起や異議申し立ては、その場で JSC イベントマネージャーおよび審査員の間で議論され、決定がなされ、JSC イベントマネージャーより競技者へその決定事項が伝達されます。

11.1.2 嘆願要請

もし、競技者が不平不満を持ち、その不満がその場で解決できなかつたり、競技者がその場での決定に対してさらなる嘆願を望む場合、JSC イベントマネージャーは競技者へ公式な不平もしくは嘆願として JSC 事務局へ書面で提出するように伝えます。JSC 事務局の決定は最終判断となります。JSC 事務局への異議申し立ておよび嘆願には必ず下記の事項を明記してください。

- 1) 競技者名
- 2) 日付
- 3) 明瞭簡潔な異議申立文章
- 4) 問い合わせの日時
- 5) 競技者からのコメント／解決案
- 6) 関係者
- 7) 競技者の情報(返信用)

上記情報が含まれていない書面による異議申し立て、嘆願は取り扱いしません。競技者は当該紛争が起こってから、もしくは不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に JSC 事務局へ E メールにて送付してください。

11.2 スコアシートを見直している際に提起される審査員／審査に関する問題について

11.2.1 異議申し立て

もし、競技者が 10.2 によるデブリーフィングのスコアに対して異議を唱える場合には、JSC 事務局に E メールでご連絡ください。JSC 事務局はその競技者を審査した審査員と JSC ルール規約マネージャーとで協議を行います。JSC 事務局はその判断を競技者へ知らせます。

11.2.2 嘆願

もし、競技者がその決定に同意できない場合は、JSC 事務局へ書面による嘆願を行ってください。JSC 事務局の決定は最終判断となります。JSC 事務局への異議申し立ておよび嘆願には下記の事項を必ず明記してください。

- 1) 競技者名
- 2) 日付
- 3) 明瞭簡潔な異議申立文章
- 4) 問い合わせの日時
- 5) 競技者からのコメント／解決案
- 6) 関係者
- 7) 競技者の情報(返信用)

上記情報が含まれていない書面による異議申し立て、嘆願は取り扱いしません。競技者はデブリーフィングから、もしくは不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に JSC 事務局へ E メールで送付してください。

12 審査員

12.1 JSC 公認審査員

- A. 本 R&R に定める JSC 審査員としての行動規範は、すべての公認審査員が一貫し審査ができるように審査条件を定めます。
- B. JSC 事務局は JSC 審査員を認定し、当該年度開催 JSC での審査員を選出する義務を担います。
- C. JSC 認定委員会により選出された JSC 公認審査員のみがジャパンサイフオニストチャンピオンシップで審査を行うことができます。

12.2 JSC 公認審査員認定プログラム

JSC 公認審査員認定プログラムは JSC 事務局の判断により年度毎に行われます。

JSC 公認審査員になるための最新情報は SCAJ ホームページをご覧ください。

12.3 審査員としての準備

JSC で審査をするすべての JSC 公認審査員は事前に実施されるワンデイ・カリブレーション・ワークショップ(調整のためのセッション)に参加してください。カリブレーション・ワークショップは原則的に JSC 開始の前日に行われます。

JSC 公認審査員のカリブレーション・ワークショップの前に下記の条件を満たすための準備を行ってください。

- A. R&R について完全に理解し、深い知識を所有していること。
- B. ヘッドジャッジ、テクニカルジャッジ、センサリージャッジのスコアシートについて完全に理解し、深い知識を所有していること。
- C. 競技会の流れや競技エリアの設定について完全に理解し、深い知識を所有していること。

12.4 審査員としての目標と目的

- A. サイフオニストという職業を支持すること。
- B. スペシャルティコーヒーとコーヒーのカップ(液体として)の素晴らしさを伝えること。
- C. 評価するときには、常に中立、公正公平な立場に立ち、一貫していること。
- D. JSC の価値を認めプロフェッショナル性の向上に努めること。

12.5 審査員がサイフオニストチャンピオンに期待すること

審査員は下記のようなことを、チャンピオンに期待しています。

- A. 熟練した技術的な技能、職人としての技能、自身の職業についてのクラフトマンシップ、接客面でのコミュニケーション能力やサービススキル、サイフオニストとしての自覚を持つこと。
- B. JSC での 6 杯のコーヒーの提供を超えた、コーヒーについての幅広い知識と高品質な飲料の提供についての広範な理解を有すること。
- C. 他者の模範となり、ひらめきのきっかけとなる役割となること。

12.6 JSC 公認審査員の主な職務

JSC 審査員は、次のことにより競技者の手助けとなります。

- A. 常に控えめにして、競技者にとって心地よい作業スペースの確保をすること。
- B. 競技者およびその文化背景を尊重し、敬意を表すこと。
- C. サイフオンの抽出や飲料の準備方法についての文化的な差異があることを知っていること。しかし、評価するときには R&R に基づいて評価すること。
- D. 事実に基づき、その価値を尊重したコメントをスコアシートに記載すること。競技者は競技会終了後にそのスコアシートを取得します。
- E. スコアシートの見直しをするデブリーフィングに必ず参加し、競技者がより向上できることを目立たせること。
- F. 競技会後に更なるコメントができるように、競技者にとって近づきやすくすること。

12.7 審査員が競技者に期待すること

- A. 競技者は R&R をしっかりと理解していること。
- B. プレゼンテーションが R&R 通りに行われること。
- C. 競技者は 15 分間の競技時間通りに競技をすること。15 分を超えた時間に競技を続けた場合は、評価が下がります。もし競技時間が 16 分を超えた場合には失格となります。

13 審査員の役割

13.1 ヘッドジャッジ

それぞれの競技者のパフォーマンスにつき 1 名のヘッドジャッジがつかます。ヘッドジャッジは競技者の作業エリアと審査員テーブルの間を行き来します。

- A. ヘッドジャッジは、競技時間中に審査の過程を俯瞰し、また発生した問題や競技に影響のあることを監督・処理します。
- B. ヘッドジャッジは、審査員が JSC 基準に従って専門的に審査するように監督する責務を担います。
- C. ヘッドジャッジは競技中に、プレスの写真家やカメラマン、オーディオスタッフやボランティアスタッフ、他の審査員などを含み、如何なる妨害も行われぬようにする責務を担います。
- D. ヘッドジャッジは、センサリージャッジが味覚評価のテイスティングを終えてから味覚審査をします。
- E. ヘッドジャッジは、ヘッドジャッジ用スコアシートを用いて競技者を審査します。
- F. ヘッドジャッジは、時間オーバーの減点があるかを判断するために、総競技時間を記録します。
- G. ヘッドジャッジは、すべての審査員が明確にかつ正確にすべての項目に得点を記載しているかを確認します。

13.2 テクニカルジャッジ

それぞれの競技者のパフォーマンスにつき 2 名のテクニカルジャッジがつかます。2 名のテクニカルジャッジは、競技エリアのそばに立ちます。テクニカルジャッジの評価項目については、JSC テクニカルスコアシートを参照してください。

13.3 センサリージャッジ

それぞれの競技者のパフォーマンスにつき 2 名のテクニカルジャッジに加え、3 名のセンサリージャッジがつかます。3 名のセンサリージャッジは審査員テーブルの後ろに位置します。それぞれのセンサリージャッジは自分自身に提供された飲料のみを評価しスコアをつけます。

センサリージャッジの評価項目については、JSC センサリースコアシートを参照してください。

14 評価項目

14.1 競技エリア

2 名のテクニカルジャッジは、競技開始時および競技終了時の競技エリアの清潔さを評価します。

14.2 味覚評価

ブレンドコーヒー、シグニチャービバレッジと、それぞれ個々の飲料について得点が与えられます。

評価としては、原材料と飲料の特徴・個性に基づいて得点が与えられます。競技者は、甘さと苦味と酸味とアロマの調和の取れたバランスが表現できるよう励んでください。競技者は、たとえばブレンドコーヒーについては、焙煎度合い、構成、主な味覚の要素はどんなものか、なぜこのブレンドコーヒーを提供しようと思ったのか、シグニチャービバレッジについては、どんな原材料を使用したのか、なぜこのシグニチャービバレッジを提供しようと思ったのかなどについて、言葉にして審査員に説明してください。

14.3 飲料のプレゼンテーション

評価として、カップ、グラス、アクセサリといった視覚的なプレゼンテーションについても得点が与えられます。ここでは、提供容器・食器の清潔さ(カップの横に、こぼれたり、垂れたりしていないか)、飲料の一貫性、創造性やプレゼンテーションの特性といった要素も含まれます。

14.4 技術的な技能

技術者の技術的な知識やサイフォンやグラインダーの操作技能に基づいて得点が与えられます。

14.5 総合的な印象

ここでは、サイフォニストとしての技能、飲料の味覚評価、そして個人としてのプレゼンテーション、飲料としてのプレゼンテーションといった審査員による総合的な印象により、得点が得られます。

15 審査員の役割

15.1 審査前の審査員の禁止行為

- A. 審査員は大会期間中、競技者と会話することを差し控えてください。他の競技者や出席者が個人的なコーチングをしているとみなします。
- B. センサリージャッジは審査前に刺激の少ないものや、控えめな味付けの食事をとるようにしてください。
- C. 審査前には喫煙をしないでください。
- D. 香りのあるデオドラント(防臭液)をつけないでください。
- E. 香水、コロンや香りのあるローションなどをつけないでください。

15.2 競技大会中の審査員の振る舞い

- A. すべての審査員は、公平公正で、誠実でなければなりません。
- B. すべての審査員は、常に競技者に対して肯定的で、丁寧でなければなりません。
- C. 審査員は、競技者の言うことのみを聞き、競技者に注目してください。
- D. ヘッドジャッジは、審査員の礼儀作法に関して、それを正す権限を持っています。

15.3 味覚審査時には

観客、ボランティアスタッフ、運営管理者、そして最も重要なのは、競技者が、味覚審査時に審査員に注目しているということを忘れないでください。どんなに些細な動きや表情の変化も、肯定的に解釈されたり、否定的に解釈されたりしますので、避けるようにしてください。

15.3.1 センサリージャッジに望むこと

- A. 競技者紹介のときには笑顔で歓迎してください。
- B. 競技者から直接質問を受けた際には答えてください。
- C. 競技者が飲料を提供する際には笑顔でアイコンタクトを取ってください。
- D. 飲料が提供されたらできるだけ早く評価を始めてください。
- E. 審査員は、競技者に対して心理的に強い影響力があることを覚えておいてください。
- F. 味覚審査中には、他の審査員と目を合わせたり、表情に表したりしないでください。アイコンタクト中には、表情をつくってしまうという本能があることを覚えておいてください。
- G. 競技時間中には他の審査員とコミュニケーションすることはしないでください。
- H. ステージ上で他のセンサリージャッジと評価を共有することはしないでください。
- I. 味覚評価中は笑わないようにしてください。
- J. 競技者や観客に否定的に解釈されることはしないでください。

- K. ヘッドジャッジを除き、他の誰にも自身に提供された飲料をテイastingすることを許してはいけません。
- L. 競技者によって、食べるように指示されない限り、競技者により提供された食べ物を食べないでください。
- M. ヘッドジャッジに対する議論、確認、質問は、競技が終了した後、バックヤードにて行ってください。

15.3.2 テクニカルジャッジに望むこと

- A. 競技者の動きをよく把握し、競技中に競技者の邪魔にならないようにしてください。
注意 (サイフォンやグラインダーをチェックする際などに)テクニカルジャッジによって汚れた場合、その審査員がきれいにしてください。
- B. テクニカル評価の最中に笑わないようにしてください。
- C. 競技者や観客に否定的に解釈されることはしないでください。
- D. 他のテクニカルジャッジとのコミュニケーションは最小限にしてください。
- E. ヘッドジャッジに対する議論、確認、質問は、競技が終了した後バックヤードにて行ってください。

15.4 審査員同士のカリブレーションタイム

競技が終了した後、センサリージャッジとテクニカルジャッジは自身の最終評価を終えてください。審査員は競技エリアから離れ、数分間のカリブレーションタイムを持ちます。

- A. 審査員のフルネームと競技者のフルネームがスコアシートの上部に明記されていること。
- B. スコアシートには明確に記入すること。
- C. もし、審査員の判断に誤りがあり、スコアを変更するときは、もとの数字ノバツをつけるか削除して、正しいスコアとイニシャルを明記すること。
- D. もし0点から6点を付ける項目に0点もしくは6点をつけた時は、カリブレーション時にヘッドジャッジに知らせてください。0点をつける際には、なぜそのスコアになったのかをスコアシートに明記してください。0点か6点をつける際にはヘッドジャッジの承認が必要です。
- E. 審査員は価値のあるコメントや事実に基づいた正確なコメントを書いてください。スコアシートの空いている場所をコメント記入に使用してください。コメントを記入することは、何か問題が起きたり、スコアの確認のために呼ばれたりした際に詳細を思い出すのに役に立ちます。また、競技大会後に競技者の評価コメントをする際にも有用です。例えば、特定分野を向上させるためのコメントや、強い分野についてのコメントや詳細などを記入してください。
- F. 審査員は、ヘッドジャッジにスコアシートを渡す際に、すべての項目を評価し、得点を記入してあるかを確認してください。

15.5 公のメディアとのコミュニケーションについて

JSC 事務局長は、メディアとの会話が許されている唯一の役職です。もし報道機関の方が近付いてきたら、JSC 事務局長に話をするように指示してください。

JSC 事務局長がメディアに話をする際には、下記のことを守ってください。

- A. 積極的であり、サイフォニストという職業の専門性を構築し、コーヒーの素晴らしさを伝えること。
- B. 個人の競技内容や飲料についての議論は差し控えること。
- C. 競技大会中のミスについての議論はしないこと。
- D. JSC を代表して話をする事。

16 技術面の評価の仕方

テクニカルスコアシートについての説明をします。それぞれの競技者は2名のテクニカルジャッジにより評価されます。

16.1 評価基準(尺度)

評価の尺度は、テクニカルジャッジ、センサリージャッジと共に同じ尺度です。

Yes=1 もしくは 3 No=0

許容できない=0 許容はできる=1 標準=2 良い=3 とてもよい=4 優秀=5 並はずれている驚くべき=6

ここでは、Yes/No 項目と 1-6 点項目の 2 通りの評価の仕方があります。

Yes/No 項目

競技者は、Yes であれば 1 点もしくは 3 点を、No であれば 0 点を獲得します。

1-6 点項目

ここでは、1 点から 6 点の間において 0.5 点きざみの評価が得られます。ハーフポイントは、小数点を使用し、10 進法にて明記してください。(分数ではありません。)例えば、1.5、2.5、3.5 と記載します。最低得点は 1 点です。0.5 点という得点はありません。1 点という評価は、まったく許容できない場合のみつけることになります。1 点と 6 点という評価はヘッドジャッジの承認が必要です。

17 スコアシートの再点検

15.4 の審査員同士のカリブレーションタイムを参照してください。

18 JSC 審査員による不誠実な姿勢について

もし競技の審査中に、ヘッドジャッジやほかの JSC 職員により、JSC 審査員に不誠実な行動が見られたり、その可能性が予想されるという好ましくない事態が起こった場合、次の対応が取られます。

- A. ヘッドジャッジは、疑惑のある評価の周辺にあるすべての競技者のスコアを公認記録係より戻すように依頼します。
- B. ヘッドジャッジは、関係のある JSC 審査員を呼び、JSC 審査員プログラムマネージャーとのミーティングによりこの状態を見極めます。
- C. JSC 審査員プログラムマネージャーと事務局長は非公開のミーティングにより裁決します。
- D. もし、不誠実という問題が規模の大きい場合には、JSC 審査員プログラムマネージャーは当該 JSC 審査員を将来にわたり、JSC 認可の大会にて審査できないという処分を裁定する権限を持ちます。

19 嘆願要請

もし、JSC 審査員がその決定に対して同意しなかった場合、嘆願として JSC 事務局へ書面にて提出できます。JSC 事務局の決定は最終判断となります。JSC 事務局への嘆願には下記の事項を必ず明記してください。

- 1) 氏名
- 2) 日付
- 3) 明瞭簡潔な異議申立文章
- 4) 問い合わせの日時
- 5) コメント/解決案
- 6) 関係者
- 7) 返信用情報

上記情報が含まれていない書面による異議申立て、嘆願は取り扱いしません。審査員はデブリーフィングの後、もしくは不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に、JSC 事務局へ E メールにて送付してください。

以上